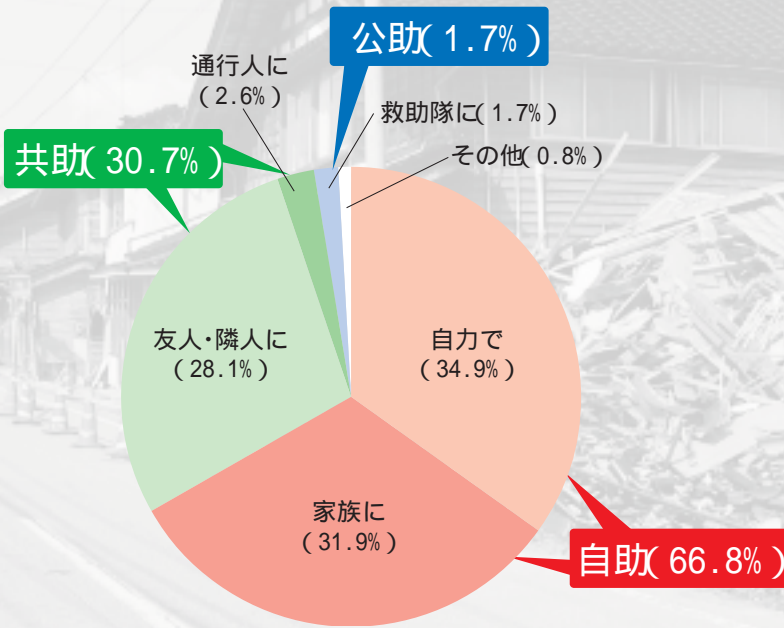


もしも地震が発生したら!?

# 『自助』『共助』『公助』の連携で

## 地震の被害を最小限に!

### 阪神・淡路大震災における救助・救出活動の実態

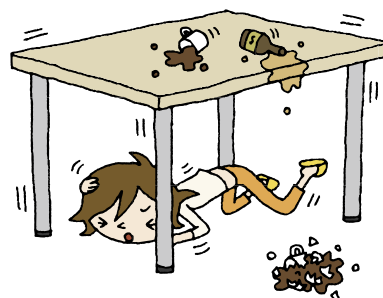


(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より  
 阪神・淡路大震災のとき、地震で生き埋めになったり、建物や家具の下敷きになったりした方のうち、自助と共助により救助された割合は約98%に及びます。一方、公助で救助されたのはわずか1.7%でした。自助が重要で、共助が頼りになるというのがわかるデータです。

### 今年5月に発生した中国の四川大地震や6月に発生した岩手・宮城内陸地震、このような大地震は、この地方でもいつ起こるかわかりません。田原市周辺で発生が心配されている東海地震と東南海地震。2つの地震が同時に発生した場合、田原市での被害は、最大で震度6強、負傷者約2000人、死者約200人と予測されています。

大災害が発生した場合、市役所や消防署、警察署などがすぐに機能するとは限りません。公助がない中で被害を最小限にするためには、皆さん一人ひとりが自助・共助の意識を持って、日ごろから災害に対する備えをしておくことが大切です。

「自宅を命を落としたり、けがをしたりしないように」と、自助を意識している人が多ければ多いほど、近所の人を助けるのに協力できる人が増え、共助が充実したものとなります。例えば、被害が小さなところでは、救助が必要な人の対応が地域できたり、火災を地域の人たちで消火できたりします。その結果、公助の消防機関などは、被害が大きなところで



すべての対策の始まり  
**自助**

自助とは、自分自身でできる範囲での備えや対応のことです。地震発生時の揺れに備えて、机の下やテーブルの下に身を隠す、家具の固定、火災時の消火器の使用などが自助の代表的な行動です。自助がしっかりしていると、共助や公助の必要が少なくなり、被害を最小限に抑えることができます。